

令和5年度 宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事【要旨】

開催日時 令和5年7月5日（水）  
14：00～16：00  
場 所 さくらドーム21 2階 第1会議室

出席者

委 員 松田健一、上野浩幸、松田博美、真木聖次、金岡利宏、高島禎郁、岩網哲雄  
宇野文夫、津田栄、田畑裕之、長谷川泉、池田勝、深井紀美子  
町職員 岡田正人総務課長、守田幸浩商工観光課長、秋田正之農林水産課長  
杉谷克久地域整備課長、山本重之健康福祉課長、松坂久代健康づくり推進室長  
中川郷子子育て応援室長、安達大治学校教育課長、岡本泰学校教育課担当課長  
宮本孝則生涯学習課長  
事務局 坂井賢企画情報課長、河端晶企画情報課長補佐、定免忠史企画情報課長補佐  
北野徳一主任

欠席者

委 員 前多佳吾、杉本啓樹

(事務局)

- ・開会挨拶
- ・欠席委員報告
- ・委嘱状配布による委嘱
- ・町長挨拶の案内

(寶達町長挨拶)【要旨】

委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席くださり誠にありがとうございます。

これから審議いただく総合戦略の事業は、町の経済の活性化・高齢者や子どもたちへのケア・教育の質の向上、地域公共交通の改善など、多岐にわたるものであります。

これを振り返りますと、町の取り組みはすでに一部の成果を上げており、町の成長・発展に繋がっております。

しかしながら、まだまだ改善の余地が残されており、今後のさらなる進歩のために、引き続き皆様からのご意見・評価やご提言を大切に考え、それをもとに改善を図って参りたいと考えております。

本日の会議に先立ちまして、皆様からすでにご意見等いただいておりますけれども、例えば若年層の人口流出と子育て支援について改善が必要である等々、取り組み事業の多さについて認識しております。これまで進めてきた事業は、成果を上げてきております。

一方で、私たちは新たな課題や、生成AIを中心とする先進技術の実現、社会における様々なニーズの変化等を踏まえること、そして効率と効果を重視することの重要性も認識しております。

事業の優先順位を見直すより重要性が高く、効果が期待できる領域に焦点を当てることで、町の問題を迅速かつ効果的に解決し、さらなる進歩につなげていくことができるとも考えております。

本日の会議では、町の取り組みに対する皆様の評価やご提言をお伺いし、それをもとにさらに事業を

改善するための議論を深めて参りたいと考えております。

皆様の知識とご経験は本町をより良くするために、大変貴重なものでございます。

これを政策にしっかりと町全体が一丸となって、ともに町を前進させていくための実りある会議とするため、何卒よろしくお願い申し上げます。

(事務局)

- ・町長が所用により退席する旨を報告。

#### 【町長退席】

(事務局)

- ・配布資料確認を案内。
- ・会長選出

推進会議要綱の規定に基づき「会長は、委員の互選によりこれを定める」の旨を説明。  
自薦、他薦がないため、事務局に一任とし、会長を選出。

(会長挨拶)

- ・第1期宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時から携わってる旨を説明。
- ・様々な議論・意見交換をしながら、よりよいアイデアを出し合う場としたい旨を説明。
- ・本日の会議終了時間は15時30分予定である旨を説明。
- ・会長職務代理を指名。  
推進会議要綱の規定に基づき、会長職務代理を指名。

(事務局)

- ・議題の進行を会長に依頼。

(宇野会長)

- ・令和2年度に第二期総合戦略を作成し、今回は令和4年度の取り組みを評価する旨を説明。
- ・事前に委員全員に資料を配付し、評価・意見をいただいているため、基本目標ごとの詳しい説明は割愛。各事業の変更点、現状の課題、今後の取り組みを簡潔に説明した後、委員の意見書についての回答をする流れであることを説明。
- ・議事を進行し、「基本目標1 地方における安定した雇用を創出する」の説明・審議へ移行。

(坂井企画情報課長)

- ・新任委員がいるため、これまでの経緯について、資料1、資料2に基づき説明。
- ・「1. 宝の土地活用推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「県立農業短期大学跡地の利活用を検討してはどうか」という意見に対し、当該跡地は県有地であるため、町が直接利活用するには用地を購入しなければならない旨を説明。また、民間の方でも活用したい方がいれば県にお伝えする旨を回答。

(守田商工観光課長)

- ・「2. サテライトオフィス推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「変更の検討内容のチャレンジショップ案を知りたい」との質問に対し、現時点では具体的には決まっていないこと、いただいた意見も踏まえて戦略の中で具体的な中身を考えていきたい旨を説明。
- ・「3. 起業創業バックアップ事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「起業した後の事業継続状況はどうか」という質問に対し、近年の創業者については町商工会のフォローアップを受けながら事業継続しており、現時点で廃業した事業者はいない旨を回答。
- ・「4. 官民競争のまちづくり戦略事業」について、事業名称がDMOによる戦略的な観光振興事業から、官民競争まちづくり戦略事業に名称変更した理由を説明。
- ・変更理由として、当町にまだDMOはなく、DMOの事業内容・計画等が定まっていない状況下のため、DMOが推進する事業計画策定にとりかかるためである旨説明し、資料3、資料4に基づき説明。
- ・いただいた意見を今後の戦略会議の中で取り組み、具体化させていきたい旨を回答。

(宮本生涯学習課長)

- ・「5. スポーツイベント振興事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・委員からの意見を踏まえ、今後のスポーツイベント運営など、継続可能なイベントとして支援を行う観点から、必要な検討を図る旨を回答。

(守田商工観光課長)

- ・「6. ふるさと会交流促進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「学生にサポーターになってもらい、まちの魅力を知って発信してもらおう」との意見に対し、引き続き、ふるさと会、事務局等と緊密に連携を図りながら、持続発展に向けた方策に取り組みたい旨を回答。
- ・「ポイントカードの活用について説明願いたい。(いかに情報を発信をするのか?)」との質問に対し、会員情報を保有による顧客の囲い込みができる強みを活かし、会員に直に情報を発信できるよう検討していく旨を回答。また現時点の情報発信について、本格的な実践段階ではないが、まちづくり戦略の方針が決まれば、段階的に情報発信を進めていきたい旨を回答。
- ・「7. 宝のなぎさ交流促進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。

(秋田農林水産課課長)

- ・「8. 農産物等ブランド化推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「農業への後継者不足や、高齢化などの対応について」の回答として、新規就農者支援制度や地域おこし協力隊制度を活用して取り組みたい旨と、引き続き産地づくり事業を展開し、農業者への支援をしていきたい旨を説明。
- ・「町の特産品、ブランド品の知名度アップや情報発信を積極積極的にすればどうか」とのご意見に対し、メディアへの情報発信や町広報紙、ホームページ等で周知をしていきたい旨を回答。
- ・「9. 新規就農者支援事業」について、資料3、資料4に基づき説明。

・「個人ではなく、企業として農業に取り組んではどうか」また、「新規就農者の不安を取り除いて、安定的な就業しやすい仕組みを検討すべきではないのか」との意見に対し、担当課でも重要なことと認識しており、今後検討していきたい旨を回答。

(宇野会長)

- ・「基本目標 1 地方における安定した雇用を創出する」の評価の取りまとめで行う旨を説明。
- ・「3. 起業・創業バックアップ事業」は「◎深化・発展」で採決してよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

・「1. 宝の土地活用推進事業」、「4. 官民共創まちづくり戦略事業」、「5. スポーツイベント振興事業」、「6. ふるさと会交流促進事業」、「7. 宝のなぎさ交流促進事業」、「9. 新規就農新事業」は「○継続」が一番多いため、「○継続」とした。

【反対意見等の発言なし】

- ・「8. 農産物等ブランド化推進事業」は「◎深化・発展」7票、「○継続」7票同票。採決のため委員に諮った結果、委員全員「◎深化・発展」に挙手された。
- ・「2. サテライトオフィス推進事業」は「◎深化・発展」2票、「○継続」4票、「△見直し」7票、「中×止・終了」2票と分かれているが、一番多い「△見直し」としてよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

- ・議事を進行し、「基本目標 2 地方への新しいひとの流れをつくる」の説明・審議へ移行。

(杉谷地域整備課長)

- ・「10. 民間賃貸住宅建設補助事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・建設が進まない状況が続けば、事業の中止や、空き家の活用、空き家取り壊しにさらなる支援など、新たな施策を検討していきたい旨を回答。

(坂井企画情報課長)

- ・「11. 宝の住まいる応援事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・定期的に事業のPRを図り、広報・SNSも活用した周知を行いたい旨を回答。また、定住促進協議会とも連携し、移住希望者に対する一体的なサポート体制の構築を図っていきたい旨も回答。

(杉谷地域整備課長)

- ・「12. 宅地造成事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・宅地ニーズの問題や、新たな造成地の計画、必要性など様々な課題を含め、検討しながら進めていきたい旨を回答。

(坂井企画情報課長)

- ・「13. 空き家バンク事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「(町内に)空き家が多くあるのに登録件数が少ない」との意見に対し、昨年11月より移住コーディネーターとして活動している地域おこし協力隊と連携して空き家の掘り起こしや、移住者が地域コミュニティーに溶け込めるよう、区長をはじめとする地元住民の受け入れ、地域の醸成を図る旨を回答。
- ・「14. 若者通勤サポート事業」について、資料3、資料4に基づき説明。

・「転出者の抑制には疑問」、「制度廃止しても利用者は転出しないのでは」との意見を踏まえて、今後も引き続き周知に努め、皆に利用いただける検討をしたい旨を回答。

・「15 奨学金返済助成事業」について、資料3、資料4に基づき説明。  
・来年度はデジタル田園都市国家構想に基づき、まち・ひと・しごと総合戦略の改定予定のため、来年度どうするか、また検討させていただきたい旨を回答。

(宇野会長)

・「基本目標2 地方への新しいひとの流れをつくる」の「10 民間賃貸住宅建設補助事業」、「11 宝の住まいる応援事業」、「12 宅地造成事業」、「13 空き家バンク事業」、「14 若者通勤サポート事業」は「○継続」が一番多いためそのまま「○継続」とする。

・「15 奨学金返済助成事業」は「◎深化・発展」1票、「○継続」2票、「△見直し」6票、「×中止・終了」6票で「△見直し」と「×中止・終了」が同票のため、委員に採決を諮る。結果、委員全員、「×中止・終了」に挙手された。

・議事を進行し、「基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」の説明・審議へ移行。

(中川子育て応援室長)

・「16 子育て世代包括支援センター活用事業」について、資料3、資料4に基づき説明。  
・宝つ子すくすくアプリの充実や内容の深化、子育て世代の方からの要望に応じた切れ目のない支援に努め、満足度を上げていきたい旨を回答。

・「指標の8点以上とすることも満足度を求める上では必要」との意見に対して、平均は7.7点あるため、今後充実させ、8点以上の方の割合を増やしたい旨を回答。

・「17 不妊治療費助成事業」について、資料3、資料4に基づき説明。  
・「不妊治療費の助成はどのように本人に伝えているのか、周知の工夫を」との意見に対して、制度については広報でお知らせしており、町ホームページにも掲載し、必要な申請書等のダウンロードができる旨を回答。

・不妊治療費の助成に関する町の窓口のお知らせ同様である旨、回答。周知方法について創意工夫することを回答。

・「18 未就学児の教育保育の質の向上」について、資料3、資料4に基づき説明。  
・「オンライン及びオフラインの取り組みや、まちの良さを理解する取り組み、幼児教育をもっと推進して欲しい」との意見に対して、町内認定こども園では、インターネット利用のほか、畑を通じた食育など、地域特性を生かした取り組みや、地域の小学生、高齢者との交流など、町の良さを体験できる独自の取り組み等を行っている旨を回答。

・今後も指定管理者と連携し、保護者ニーズを把握しながら、教育保育の質向上に努めていきたい旨を回答。

・「19 児童遊戯施設整備事業」について、資料3、資料4に基づき説明。  
・「屋外児童遊戯施設の利用状況、遊び場の創出、屋内施設の早期建設等」の意見に対して、安全面に配

慮しながら、子どもたちの遊び場、居場所として定着できるよう、また、雨天時等屋内の遊び場についても今後検討していきたい旨を回答。

- ・「20 宝たち成長お祝い事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「この事業は、出生率の向上には繋がらないが、子育て支援や移住定住の取り組み等に繋がることにより、事業の継続」との意見に対して、他の市町にはない取り組みであるため、今後も子どもたちの成長を祝い、若者の子育てを支援していきたい旨を回答。

(安達学校教育課長)

- ・「21 宝たち検定チャレンジ事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「目標達成には受検率の向上が必要である」、「取得率を高める工夫、もう一段上のインセンティブを設けるなどの必要があるのではないか」との意見に対して、町としては3級、4級、5級と下の級の方からの取得を促したり、周知方法の改善など、より3級受検に取り組みやすい環境づくりを進めていきたい旨を回答。

(宮本生涯学習課課長)

- ・「22 宝たちビジネスアカデミー事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・委員の意見を踏まえ、幅広い職種、事業者等の協力を得ながら、選考の段階で農業経営も含め、ICTネットビジネス、ネットワークの活用、情報や知識の共有、円滑なコミュニケーションを図れるかなど、検討したい旨を回答。

(中川子育て応援室長)

- ・「23 宝の縁結び事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「女性の登録者の増加や、女性が参加しやすい婚活イベントの開催、参加者の増加を図る必要がある」との意見に対して、女性が参加しやすく、出会いの場として気軽なイベントを検討していきたい旨を回答。
- ・県の委託による、いしかわ結婚支援センターで行うイベント、マッチング、お見合いの事業が開始した。あいきゅん会員として登録することで、相手探し、マッチングや出会いの場、縁結びイベント、縁結びistによるお見合いなどが広がるものであるため、今後出会いの場を増やし、地域会員を増やすためにも、あいきゅんの周知と会員登録を進めていきたい旨を回答。

(宇野会長)

- ・「16 子育て世代包括支援センター活用事業」、「17 不妊治療費助成事業」、「18 番 未就学児の教育保育の質向上」、「19 児童遊戯施設整備事業」、「20 宝たち成長お祝い事業」、「21 宝たち検定チャレンジ事業」、「22 宝たちビジネスアカデミー事業」、「23 宝の縁結び事業」は「継続」が圧倒的に多いため、「継続」で採決してよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

- ・議事を進行し、「基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の説明・審議へ移行。

(山本健康福祉課長)

- ・「24 一般介護予防事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「K P Iの達成度が風化した理由」に対して、送迎付き介護予防教室などの参加人数の減少であり旨を回答。
- ・コロナ禍の規制緩和に伴い、健康づくり推進員の各種地区での介護予防教室や地区サロンの再開支援を行うとともに、地域の居場所づくりを推進するため、サロンのあり方や取り組み等について、サロンリーダーの研修及び新規サロンの立ち上げを実施し、今後はできるだけ多くの人に参加していただくよう努める旨を回答。
- ・「25 認知症総合支援事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「認知症にならないための対策」として、認知症を予防する基本的なことを住民に広く理解してもらえよう、出前講座やフォーラム、ホームページやSNSなどを活用して、普及啓発を強化していきたい旨を回答。
- ・今年度は認知症サポーターのうち、希望する人を対象に、より実践的な内容を学ぶステップアップ講座を開催する予定で、講師は認知症疾患医療センターの精神保健福祉士など専門職を検討中。サポーターが認知症に関する理解をさらに深めることで、地域のニーズに対して活動支援できるよう体制整備を進める旨を回答。
- ・「26 在宅医療介護連携推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「医療と介護の連携がうまくいかない理由」について、医療依存度の高い方を受入れる介護サービス事業所も少ないことや、医療職の介護サービスの理解が不十分な医療機関があること、また医療機関と介護施設各々の手順で入退院支援が行われており、双方の連絡不足によることなどが挙げられるため、今後も多職種連携研修会、町入退院支援ルール周知・活用に取組んで参りたい旨を回答。
- ・「27 地域包括支援体制の整備」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「今後ますます家族、或いは地域をもっと巻き込む支援が必要」との意見に対し、高齢化や核家族化が進み、地域住民が抱える課題は複雑化・複合化し、従来支援体制では支援が困難な状況となっているため、属性を問わない包括的な支援体制を構築できるよう、各制度や関係機関の円滑な連携とともに、住民主体の地域づくりや共助の仕組みに向けて協議して参りたい旨を回答。

(松坂健康づくり推進室長)

- ・「28 健康増進事業（がん検診）」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・若年層を含めた検診の重要性については、広報やホームページ、ケーブルテレビを通して、また各種団体と共に連携し、がん検診の普及啓発を引き続き、周知に努めていきたい旨を回答。
- ・「29 健康増進事業（特定健診、保健指導）」について、資料3、資料4に基づき説明。
- ・「働き盛りの世代、40代50代の率を上げるための具体策について」の意見に対して、働き盛りの40代50代の方が受診しやすいように、集団健診の日程については、すべての曜日を入れていることや、土日健診を複数設けていること、また町内の医療機関で受診ができる個別健診では、6月から10月の4ヶ月の実施期間を設け、都合の良い時期に受診できる体制をとっている旨を回答。

・ 今後は、40代50代の受診率が低いことから、対象者台帳や重症化予防対象者の台帳を活用し、受診勧奨を強化のため、引き続き、特定健診を周知しながら、受診した方々には、一人一人個別性を重視した保健指導を実施し、受診率の向上に努めていきたい旨を回答。

・ 「30 地域組織育成事業」について、資料3、資料4に基づき説明。

・ 健康づくり推進員、食生活改善推進協議会ともに担い手問題の解消を目標の一つとする活動ボランティア組織であり、今後も養成講座の開催を検討しながら支援を続ける旨を回答。

(坂井企画情報課長)

・ 「31 地域交通政策推進事業」について、資料3、資料4に基づき説明。

・ 「コミュニティバスの利用の不便、デマンドタクシーが使いにくい」とのご意見に対して、町では地域公共交通協議会の方を年2回開催しており、皆様からの意見をいただき、ルート設定時に活用させていただきたい旨を回答。

・ 「KPIの目標値がわかりにくい」との意見に対して、この目標値については今後検討させていただきたい旨を回答。

(岡田総務課長)

・ 「32 地域行事サポート事業」について、資料3、資料4に基づき説明。

・ 「ほかの地域の横展開を早期に進めるべき」との意見に対して、北志雄地区の集落間の連携が強く、現状、若者が少なく高齢者の比率が高くお互いの共同作業において、事業活用が求められるのではないかと、ということからモデル地区として選定している事業を北志雄地区以外への展開ができるかどうかは、同地区の活動や、今後の検討課題などを精査し、考慮していきたい旨を回答。

・ 「地域間交流に大学生や高校生が参加することで活発になるのでは」との意見に対して、大学生や高校生が参加できれば、地域の集落の交流が活発することも可能だが、本事業は一つの集落を活性化させるというものでなく、集落間の交流促進という意味合いから、本事業ではなく、地域活性化事業としての目的を持った事業の方が適するのではないかと考えている旨を回答。

(宇野会長)

・ 「24 一般介護予防事業」、「25 認知症総合支援事業」、「26 在宅医療・介護連携推進事業」、「27 地域包括支援体制の整備」、「28 健康増進事業(がん検診)」、「29 健康増進事業(特定健診・保健指導)」、「30 地域組織育成事業」、「31 地域交通政策推進事業」、「32 地域行事サポート事業」は「継続」が圧倒的が多いため、「継続」で採決してよいか委員へ質問。

【反対意見等の発言なし】

・ 32項目すべての審議が終了。

・ 次第にに沿い、その他について委員に意見をうかがう。

(委員)

・ 前回の会議で「中止」と決議した事業がいくつかあったため、前回の結果を踏まえて評価に記載いただきたい。明確に記載あるのは「15. 奨学金返済助成事業」のみで、それ以外は特に記載もなく評価が行われていると思う。委員も変わるため時々の評価も変わると思うが、前回特に厳しかった事業は記載



いただいて評価を行っていただきたい。

(宇野会長)

・前は「15. 奨学金返済助成事業」が「中止」。「1. 宝の土地活用推進事業」、「19 児童遊戯施設整備事業」、「23 宝の縁結び事業」が「見直し」となった。

(委員)

・「23 宝の縁結び事業」について書かせていただいた。町も県の取り組みに乗じるので、本事業に関しては「中止」に近い決議であったと記憶しているが、その後の評価で「継続」とするのはかまわない。

(坂井企画情報課長)

・昨年も「中止」のご提言いただいた「15. 奨学金返済助成事業」は「中止」で今後進めていきたい。  
・「見直し」の案件、企画情報課関係「1 宝の土地活用推進事業」について、以前は企業誘致を待っていた状態という認識。今後は町営住宅建設と宅地造成を行い、推進していきたい。

(委員)

・地方に若い人がとどまるのは難しい状況であり、町の事業は地味であると感じるので、若い人はとどまらない。  
・子育て支援よりも結婚できる環境づくりをしないと、子を産み育てるという考えが生まれにくい。  
・宝達志水町にいることの価値をどうやったら高められるかということをししないと、結婚してとどまるということはできないのでは。  
・総合戦略に挙げられている事業で人をとどめるのではなく、古いものは捨てて新しい部分を生み出すことをやらないといけない。現状維持は変えるべきだと感じている。

(宇野会長) 女性委員の発言を促す

(委員)

・地味なことを続けていくというのは、それはそれで良い。  
・宝達志水町の特色、他の市町と比べて良いところ、もっとアピールできるというのは、この戦略を見ても見えてこない。  
・その点が気になる。だからといって、もし給食費無償化すると、継続するために来年、再来年もずっと継続できるような財源があるのかとか、そういった色々な問題も含めて考えると、ハードルは高いと思うが、町の本気度がどこにあるのかが、もっと見える戦略があると町も変わってくるのではないかと。

(委員)

・町で頑張っている様々な人たちと、積極的に協力し合えばいいアイディアが出るのでは。  
・稼げる人を増やすために、例えばお年寄りにも副業を頑張ってもらおう。  
・クラウドファンディングを積極的に活用するなど、柔軟に対応する。  
・町を良くしたいという志は皆さん同じだと思うので、色々な人と活発に意見交換できると良い。

(委員)

- ・町にすぐに進める賃貸の戸建を充実させることで、移住希望者・移住者が増えて人口増につながる一つの答えだと思っている。
- ・他地方の空き家の再生、活用情報で空き家をリフォームして、移住希望者さんに貸し出しているというシステムを構築されている。
- ・能登町でも移住者に提供できる戸建て賃貸物件を用意してるということを知った。
- ・宝達志水町でもそういった物件を多少でも用意して移住希望者に提供できるようなシステムを構築できてたら、と思う。

(宇野会長) まだ発言のない委員の発言を促す

(委員)

- ・やはり現状維持は良くない。前に進むために、先を見通して5年先、10年先のことを考えて思い切った戦略を立てることも大事。
- ・やって駄目ならまた考え直す、そういった繰り返しでいいものが生まれてくるのではないかな。
- ・子どもたちが将来、自分は生まれ育った宝達志水町で頑張るんだという、希望の持てるまちづくりをお願いしたい。

(委員)

- ・町外の者からすると町の知名度は低く感じる。これだけ事業を行ってても、あまり目立たない印象。
- ・定住者を増やして結婚・出産、または起業される方を増やすには、抜本的な改革・提案等が必要。

(宇野会長)

- ・今、学校給食の無料化や無農薬野菜を使うべきという考えのトレンドがある中、宝達志水町がトップランナーになって、学校給食の無料化と無農薬野菜化にあえてチャレンジすることによって、また違ったトレンドができると思う。それにより家族移住が増えるのではと考えた。

(委員)

- ・総合戦略の評価をする事業はどれも必要なことばかりで、どれをやめるということも難しい。
- ・企業と町とを置き換えると、企業というのは、時代に即応して生きていかなければならない。企業は客から、”これが特色だ”と言われる企業にならないと仕事が継続しない。企業は時代の流れに対応していかないと生きていけないし、魅力も出せない。
- ・町に置き換えて、”これが特色だ”というのが宝達志水町にあると良い。総合戦略の32項目はどれも外してはいけないけれど、プラスものすごいインパクトのある事業があると、宝達志水町の魅力が上がると感じる。

(委員)

- ・まち・ひと・しごとの目標、目的である人口減少を何とかしなくちゃいけない。
- ・羽咋市では千里浜ヒルズ、志賀町ではみらい東部、かほく市もそれぞれにいろいろな宅地分譲を用意している。そのため会社に入ってきた地元の若い人で、羽咋市、かほく市、志賀町等に移る人が多い。
- ・先の三市町は宅地造成に伴う人口増により、将来的に財政が維持できるということに繋がると思うが、

町はそういった先を見据えた努力されているのかと心配に思う。

- ・「12. 宅地造成事業」の目標値0、実績も0で本当に大丈夫なのか。先ほど今浜で分譲計画があると聞いて少しは安堵したが、もっともっとスピーディーに今できることを、町として早くしなければいけないことを見つけてどんどん進めていって欲しい。

(委員)

- ・町として企業支援、農業支援等に力を入れるのも良いが、大きな働き口が足りない。居住地近くに働き口があれば良いが。
- ・町から金沢あたりまでは通勤圏内であり、北は七尾くらいまでが通えるため、居住地としてもっと充実させ、魅力づくりに重点を置いて取り組む方が良い。

(委員)

- ・抜本的な話、”地方・田舎は空き土地がたくさんあるから、ディズニーランドを呼んだらどうか”という冗談ではあるが、ディズニーランドのようなテーマパーク等が来れば若い人は来るし、それに合わせて働く人も来る。それぐらい突き抜けたものでないと、今考えられる抜本的なものというのは、他の市町と一緒にになってしまうと思うので、また新たな魅力づくりに取り組んでいただきたい。

(委員)

- ・どこかに働きに行くという考えがまだまだ一般的だが、町内にいてもインターネットを使って、在宅ワーカーとして、都会から仕事をいただいて自宅で働ける。
- ・エンジニア、IT系プログラマーたちは、都会にたくさんいるが、今はどこに居ても働ける世の中になってきているので、そういう人達を増やすのも一つの考え。
- ・増やすならば、中学、小学校高学年頃からプログラミング、エンジニアの育成、理系脳を育てるというのも一つのアイデア。
- ・町内の人だけでなく、移住してくる人達を求めるよりも、地元を離れた町の人達を、宝達志水町は住みやすいんだよ、と呼び戻す方が手っ取り早いと思う。

【委員全員が発言を終える】

(宇野会長)

- ・審議に対する謝辞と、審議を終了し進行を事務局へ返す旨を発言。

(事務局)

- ・審議に対する謝辞と、企画情報課長から閉会の挨拶をする旨を発言。

(坂井企画情報課長)

- ・審議に対する謝辞を発言。
- ・提言をまとめ、引き続き事業を進める旨を説明。
- ・来年度以降のデジタル田園都市国家構想、総合戦略の改定等に関する旨を説明し、会議を終了。